

短 報

看護学生の1年学習した成果としての看護の認識

近藤裕子¹⁾, 近藤美月²⁾, 岩本真紀³⁾,
立石有紀²⁾, 南 妙子³⁾

¹⁾徳島大学医学部保健学科, ²⁾前香川大学医学部看護学科, ³⁾香川大学医学部看護学科

要 旨 看護学生は入学初期から学習する看護学や, 日常生活の中で多様な体験や経験を積むことにより, 看護に対する見方・考え方を変えながら, 自らの看護観を形成していく. 今回, 看護学生が入学時と, 1年間看護学やその関連科目, 教養科目などを学習した1年終了時における看護の見方・考え方について学生の記述内容を分析した. その結果, 看護学生は入学後1年間の学習や経験などが加味され, 看護に関する認識を新たにしたり深めたりしていた. この認識の変化には, 専門科目である看護学概論や看護理論の影響が大きいと考えられた. なぜならば看護学生は, 1年間に学習した看護学概論や看護理論の科目の中で捉えた看護の考え方をベースに看護の認識を深めていた.

キーワード: 看護, 認識, 学習成果, 看護学生

はじめに

看護学生の看護に関する認識は, 学習する専門科目や看護学に関連のある科目, あるいは日常生活や人間関係の中で体験や経験を積むことに影響を受け, 変化しながら看護観を形成していく.

看護学生にとって, 入学直後より学習が開始となる看護学概論や看護理論の科目は, 学生の看護に対する見方, 考え方の基盤を形成する科目である. これらの科目を担当する教員は, 学生が看護について一方向からだけでなく多方面から考えることができるように科目内容を組立て, 教授することが必要と考えている.

看護の認識に関する先行研究では, 学生の認識は学習する専門科目の影響を受けて変化すること¹⁻³⁾, また実習による変化^{4,5)}, 事例や理論を活用することによる影響^{6,7)}が報告されている. これらの先行研究から専門科目における講義や演習・実習などにより, 学生はより看護に対する認識を深めていた.

本研究では, このような先行研究の結果をもとに, 学

生が入学1年間の経時的経過の中で, 看護に関する認識がどのように変化したかを明らかにし, 専門科目としての看護学概論や看護理論の教授内容を検討する資料としたいと考えた.

目 的

入学時と1年終了直前の看護学生が1年間の看護に関連する学習から, 看護への認識がどのように変化したかを検討し, 学生の1年間の学習成果を明らかにすることにより, これからの授業内容を検討する資料とする.

方 法

1. 対 象

A 大学看護学科1年生69名である.

2. 方 法

2002年1月の後期授業終了時に1年生に対して入学時と, 入学1年後の現在において, 看護をどのように認識しているのかについて自由記述の調査を依頼した. 調査の回収は学年の責任者である学生に依頼した. 調査に承諾の得られた学生は68名であった.

2003年12月25日受理

別刷請求先: 近藤裕子 〒770-8509 徳島市蔵本町3-18-15
徳島大学医学部保健学科

学生が記述した内容の分析は、研究者間で看護に対する見方・考え方について記述されている箇所をチェックし、その後その箇所を一つの意味をもつように文章化して記録し、類似内容ごとにカテゴリー化(サブカテゴリー、カテゴリー)を行い名前をつけた。

分類の信頼性はスコットの式にて行い、一致率は入学時88.1%、1年終了直前は82.7%であった。

3. 倫理的配慮

学生には評価には無関係であること、個人を特定しないこと、プライバシーを守ること、結果は次年度の授業改善に活用することなどについて説明し、協力を依頼した。

既習の科目と看護学概論および看護理論との関連と内容の概略

看護学生は、入学後1年間に看護学(看護学概論、看護理論、看護援助論の一部)とその関連領域(形態機能論、人間関係論、保健学概論、精神保健、社会福祉論、ボランティア援助論)、および共通教育でさまざまな科目を学習する。専門科目である看護学概論と看護理論は看護学を学習する基礎として位置づけられ、ともに1単位30時間の科目であり、前者は前期に、後者は後期に開講している。

看護学概論では看護の定義や看護の構成要素の考え方、ナイチンゲールやヘンダーソンの看護論、看護活動などについて、看護理論では理論の定義や理論出現過程、理論開発過程の講義後に異なる理論分野から理論家を選択し、それに学年進行に伴って学習する各領域において活用する理論との一致も考慮し、ペプロー、オレム、ロイ、レイニンガー、ロジャーズの5人の理論家の理論内容を学習している。

結 果

看護学生が記述した看護に関する記録は全体で256件あり、その内訳は入学時は54件、1年終了直前は202件であった。

入学時の記録は、「看護は患者の世話や援助を行う」「看護は医師の指示どおりに行う」「看護は専門的な役割もっている」「看護に対する一般的なイメージしかなく、はっきりしない」「看護はさまざまな人間と関わる」「看護がなう部分は大きい」「その他」の7カテゴリーに

分類でき、それらのカテゴリーは13のサブカテゴリーから構成されていた(表1)。

看護学生が一番多く記述した「看護は患者の世話や援助を行う」のカテゴリーは、「患者の世話をする」「診療の補助と身の回りの世話をする」「身体的・心理的ケアを行う」の3サブカテゴリーから構成されていた。「看護は医師の指示どおりに行う」のカテゴリーは、「看護は医師の補助や手伝いを行う」「看護はマニュアルどおりに行う」の2サブカテゴリーから構成されていた。「看護は専門的な役割もっている」のカテゴリーは、「看護には技術が必要である」「看護には知識が必要である」「看護は専門的である」の3サブカテゴリーから構成されていた。「看護に対する一般的なイメージしかなく、はっきりしない」のカテゴリーは、「漠然としている」「理想の看護像やイメージがあった」の2サブカテゴリーから構成され、「看護はさまざまな人間と関わる」のカテゴリーは、「人間と関わる」「チームの一員として関わる」の2サブカテゴリーから構成されていた。「看護がなう部分が大きい」のカテゴリーは、「広い分野で活躍する」の1サブカテゴリーから構成されていた。

1年終了直前の記述内容は、「看護の領域は幅広い」「看護には人間関係が重要となる」「看護は専門職である」「看護にはさまざまな能力が必要である」「看護に対する認識が変化した」「看護は患者が中心である」「看護はいろいろな援助を行う」「看護は難しい仕事である」「看護とは、今後の自分の課題である」「看護は重要な仕事である」「看護を学んで自分が成長した」「看護がまだわからない」「看護への認識は変わらない」「その他」の14カテゴリーに分類でき、それらのカテゴリーは47のサブカテゴリーから構成されていた(表2)。

看護学生が一番多く記述した「看護の領域は幅広い」のカテゴリーは、「看護は奥深い」「多角的な学問である」「看護にはさまざまな役割がある」「地域看護への広がり」「誰もがができる一面もある」「いろいろな人が対象となる」の6サブカテゴリーから構成されていた。次に記述の多かった「看護には人間関係が重要となる」のカテゴリーは、「人間関係が重要である」「コミュニケーションが大切である」「人間と関わっている」「患者に影響を与える」「相互作用である」の5サブカテゴリーから構成されていた。「看護は専門職である」のカテゴリーは、「専門的な学問である」「今後、発展していく」「専門職である」「変化している」「看護の独自性がある」「看護理論がある」「歴史がある」の7サブカテゴリーから構

表1 看護の認識 (入学時)

総件数：54件 一致率：88.1%

カテゴリー	サブカテゴリー	記 録
看護は患者の世話や援助を行う (14)	患者の世話をする (9)	患者の世話 (4)
		人のお世話 (1)
		患者の世話役 (1)
		看護=援助 (1)
		患者を援助すること (1)
		子どもを看護する (1)
	診療の補助と身の回りの世話をする (3)	診療の補助・身の回りの援助のイメージ (1)
		注射する, 診療の手伝い, 患者の世話をする (1)
		病院で病気やけがの回復に携わると思っていた (1)
	身体的・心理的ケアを行う (2)	患者の世話をし, 身体的・心理的・社会的な苦痛を和らげる (1)
		検温やナースコールでその人のところへ行き, コミュニケーションを大事にするもの (1)
看護は指示どおりに行う (9)	看護は医師の補助や手伝いを行う (7)	医師の助手 (1)
		医師の手伝い (1)
		医師の補佐役割 (1)
		医療知識を医師が学ぶことで, 看護師は医師の指示に従うもの (1)
		医師の補佐役 (1)
		医師の指示どおりに動き, 準備, 後かたづけ, 処置をすることができる知識を持った職業 (1)
		補助的役割 (1)
	看護はマニュアルどおりに行う (2)	看護にはマニュアルがある (1)
決められたことだけやっていたらよいというイメージ (1)		
看護は専門的な役割をもっている (8)	看護には技術が必要である (4)	看護技術を重視 (1)
		技術職であり, 課程別の差はない (1)
		アートの部分のイメージ (1)
		注射したり, シーツ交換するという技術的なことと心のケアをする (1)
	看護には知識が必要である (2)	知識をたくさん持っている看護師がよい看護師, 経験より勉強さえすればよい (1)
		知識豊富なすごい看護師になる (1)
	看護は専門的である (2)	看護師は役割, 立場から患者に接するもの (1)
専門の授業, 介護実習 (1)		
看護に対する一般的なイメージしかなく, はっきりしない (8)	漠然としている (5)	看護を単にイメージとしてとらえていた (1)
		看護師が行う行為として漠然としてとらえていた (1)
		看護という仕事を漠然ととらえていた (1)
		仕事を漠然ととらえていた (1)
		浅い知識しかなかった (1)
	理想の看護像やイメージがあった (3)	理想の看護像を描いていた (1)
		ナイチンゲール (1)
		看護師は優しい明るいお気楽なイメージ (1)

看護はさまざまな人間と関わる (7)	人間と関わる (5)	人間関係 (3)
		介護実習より看護の難しさ, よい人間関係を築くことの難しさ (1)
	チームの一員として関わる (2)	複雑な人間と接する職業だから, 自分の考えで接するのは危険と思っていた (1)
		看護師独自では何もできない (1)
看護がにやう部分は大きい (4)	広い分野で活躍する (4)	医療職者と協力・協調し, 調整をはかるという印象 (1)
		看護はグローバルなものになる (1)
		看護は浅く広い分野 (1)
		お金がなくてもどこでも奉仕できるもの (1)
その他 (4)		地域社会の中で地域の人々の健康管理をすること (1)
		看護理論レポート (1)
		どういう風に接したいという気持ちの中心部の変化はない (1)
		医療を実行する立場と援助する立場との区別がつかなかった (1)
		看護師と患者は対等であると頭で考え, 与える側に看護師 (1)

表2 看護の認識 (1年終了直前)

総件数: 202件 一致率: 82.7%

カテゴリー	サブカテゴリー	記 録
看護の領域は幅広い (38)	看護は奥深い (15)	奥深く幅広い学問
		看護は援助であると思うが, それ以上の意味・価値が含まれている
		看護は奥深い
		学べば学ぶほど看護は難しい
		奥深い学問
		看護は奥が深い
		看護の定義から看護は奥深いものである
		看護の奥深さを実感
		看護は奥深いもので難しいことばかり
		看護の深さに気づいた
		答えのない奥深いもの
		看護という言葉の中にいろいろな要素, 意味が含まれている
		内容が深く, 広い範囲まで興味が広がった
		看護という言葉が持つ意味の深さを知った
		いろいろな捉え方がある
	多角的な学問である (10)	多くの知識が必要とわかった
		他分野の知識も必要
		医学知識, 人間関係, 心理まで複雑
		多くの学問が関係していて難しい
		いろいろなことに関連した学問
ケアのできる看護師はいろいろな学問を学んだ幅の広い人間である		
雑学が大切		
医療に関する知識と技術だけでは看護師になれない		
関わる領域が広い		
看護は1つの領域に当てはまらないたくさんの要素を含む		

	看護にはさまざまな役割がある (5)	看護師の役割はさまざまである (看護はさまざまな役割を果たす)	
		医師の指示以外にも看護師はすることがある	
		より良い看護の提供	
		活動の場が拡大している	
		看護にはケアが求められる	
	地域看護への広がり (3)	施設内・外・日常生活でも看護は関わる	
		訪問看護への興味	
		地域と密接に関係している (これからの看護)	
	誰もができる一面もある (3)	看護は専門職であるが誰にでもできる人間の一面でもあるような気がする	
		看護の範囲は広く、看護師によって行われているとは限らない	
		看護は誰にでもできる身近なこともある	
	いろいろな人が対象となる (2)	対象となる人がいろいろ	
		あらゆる人すべてが対象	
	看護には人間関係が重要となる (29)	人間関係が重要である (12)	人との関わり合いが強く、人に幸福をもたらす
			看護は人間関係に注目した看護の役割・機能を果たすもの
			人間関係を基盤としたケアリングであり、それを中核として発展していくべき
看護は人間関係が最も重要である			
人間関係の学習が必要			
人間関係を上手に導くことの大切さ			
看護は人間同志の関わりあいできされる			
人間関係			
看護提供には人間関係が大切			
人間関係が大切			
看護の目標は健康だけでなく、患者－看護師両者の学習であり、患者が看護師との関係で何か学ぶ			
看護は生活していた時、快適に暮らせるように働き、相互作用によって成立			
コミュニケーションが大切である (7)		人と人のコミュニケーション	
		コミュニケーションをとりながらの看護は難しい	
		コミュニケーションに対する自信欠如	
	患者の接し方は実際にできるか不安		
	看護は1人1人のとのコミュニケーションで成立		
	コミュニケーションのとり方		
人間と関わっている (5)	看護は人間と密接に関係している		
	看護は健康の維持・増進の援助をすることを目的としている対人プロセス		
	ヒューマンサービス		
	看護は生活全体・人間全体の基本となる		
	看護の対象は人間であることで考えが変化		
患者に影響を与える (3)	患者に与える影響が大きい		
	看護師のことが患者の治療に最も大きい影響を与えているのではないか		
	看護のありようによって看護を受け入れる人のこれからの人生も大きく変わっていく		

	相互作用である (2)	看護は相互作用 相互作用
看護は専門職である (26)	専門的な学問である (5)	確立した専門的な分野
		看護という独立した学問がある
		看護は独立した専門的学問
		看護は独立した一分野
		看護は世話をすることではなく、1つの学問科学だ
		看護学として確立した学問があること
	今後、発展していく (5)	看護は多くのものに影響し、影響を受けて発展する
		未来ある学問
		看護は発展していかなければならない
		看護を学問として確立したい
	専門職である (4)	看護は独自のものとして発達しつつある
		専門職であり専門領域を持つ
		高度な技術を持つ専門職
		看護は専門職である
	変化している (4)	専門的である
		看護も新しいものから影響を受ける。歴史も重要な意味を持つ
		看護学を学び、研究改善される
		看護も変化していく
	看護の独自性がある (3)	看護研究の大切さ
		独自の役割がある
独自の援助をできることが大切		
看護理論がある (3)	いろいろな医療従事者の中で看護が成り立っている	
	看護実践に理論は重要	
	サイエンスな部分なくして看護は成り立たない	
歴史がある (2)	看護に看護理論があることに驚いた	
	歴史ある学問	
看護にはさまざまな能力が必要である (20)	専門的知識が必要である (7)	看護の歴史、基盤があってこそ実践、研究が行われることを知った
		知識が必要
		専門的な知識がないと行えない
		科目内容を覚えているだけではだめだ
		看護は誰にでもできるものではなく、教育を受けて初めてできる
		看護師になるには莫大な量の知識が必要
		技術面を学ぶのが看護師と思っていたが、それ以前に基礎となる知識を身につけることが大切
	技術が必要である (6)	看護実践の基礎となる知識を身につける大切さ
		看護に必要なのは的確な判断と高い技術である
		看護を行うための知識や技術を身につけることが大切
		看護師として必要な技術や理論の必要性を認識するようになった
		注射をする、採血をするという技術面から

		技術面のケア（看護に必要なものは）
		看護実践には技術の習得が大切
	人間性が必要である（5）	看護は看護師の患者に対する行動や態度，知識などの持ちうるすべての能力である
		看護師は優しさでもってケアを行う
		人を思いやる心と元気づけようとする心が大切
		看護をするにあたり患者を思いやる気持ちや優しさが看護師の第一条件
		看護は人間味ある人にこそできる
観察力が必要である（1）	看護には観察力が必要	
積極性が必要である（1）	看護師は積極的に考え，行動していく	
看護に対する認識が変化した（18）	看護のイメージが変化した（7）	患者の世話をするだけが看護ではない
		看護の役割について考えが変わった
		看護のイメージに対する変化
		身近に感じるようになった
		病気に対して行う行為と思っていた
		看護を広く捉えることができる
		看護に対する見方が変わった
	看護への考えが深まった（4）	看護への考えの深まり
		看護とは何かが漠然と見えてきた
		具体的なイメージは持っていなかったが，学習により看護への考えが深まった
		漠然としたイメージがきちんと形になった
	視野が広がった（3）	視野・視点への気づき
		視野が広がった
		視野の広がり
	メタパラダイムを理解した（2）	看護の構成要素間のつながりを意識
		メタパラダイムが持つ重要な意味
	看護を誇りに思う（2）	誇りを持った（看護師を目指していることに）
		看護学を学ぶことに誇り
看護は患者が中心である（13）	サービスである（5）	看護はサービスである
		サービスを意識しだした
		看護は健康な状態であるために必要なサービス
		サービスにはいろいろな形，目的，方法，指導がある
	患者の個性を考慮した援助が必要である（3）	サービスである
		患者と正面から向き合い，ニーズに応じてあげる，ニーズに応じてあげられるように努力することが重要
		マニュアルにそって行動するのではなく，患者に本当に必要なことを援助していく
	人間を理解する（3）	1人1人にあったケアを提供するもので，けっしてみんなに同じことをするものではない
		患者に対して関心を持つ
		看護師に求められるのは人間の理解であり，次に知識や技術が求められる
		人間も奥深くいろいろな視点から見る必要性

	相手の立場に立つ (2)	患者の立場に立った考えを持つことが大切 患者の立場に立って考えるということは簡単なようで難しい
看護はいろいろな援助を行う (11)	環境に働きかける (5)	環境との関わりの重要性
		看護は患者と看護師の関係を重要視しているだけでなく、環境を拡大して考えるべきであることがわかった
		環境と人間との相互作用によって促進される
		看護と環境との難しさについて知った
		周りの環境を整えることが大切
	精神的ケアを行う (3)	患者の精神的な支え
		患者の精神的なことができるか不安 心のケアも大切
健康に働きかける (1)	人々の健康のために働きかけている	
精神的・身体的援助を行う (1)	看護師は医師をサポートして患者を精神的、身体的にも援助	
問題解決を援助する (1)	看護とは対象の持っている能力を信じ、患者自身が問題解決できるように援助すること、その目標達成に環境を整えたり情報を提供する	
看護は難しい仕事である (9)	看護は難しく大変な仕事である (9)	看護するというはとても難しく大変なもの
		安易な気持ちではやってはいけないと思ひ不安
		看護提供の難しさ、大変さ
		思っていた以上に難しい
		看護を学ぶのにまさかこんなに頭を使うとは思わなかった
		責任の重い仕事ができるか不安
		難しい仕事
		大変な仕事
看護は複雑なもの		
看護とは、今後の自分の課題である (8)	理想に向けて学びを深める (4)	自分の描く看護師像を描き努力する
		希望より不安が大きいが理想に近づけるようがんばる
		いろいろなこと (学び) が将来につながるのががんばる
		ロイ理論を活用したい
	自分を成長させたい (4)	日々成長して自分なりに看護ができればよい
		人として他の人に受け入れてもらう人間になりたい
		理論家の考えを批判的に捉えることを忘れず、自分の看護の考え方を試行錯誤させながらつかんでいく
		軽い気持ちで入学したがこれから真剣に考えていきたい
看護は重要な仕事である (7)	命に関わっている (3)	看護は命に関わるもので強い責任感が必要である
		命を預かる仕事で大変なのは当然
		少しのミスが患者の命をおびやかすかもしれないことを考えると少し怖い気
	やりがいのある仕事だ (2)	やりがいのある仕事
		大変な仕事だがやりがいのある仕事
	看護は貢献している (2)	医学に大きく貢献している 社会に貢献する

看護を学んで自分が成長した (5)	実習の重要性を実感した (3)	講義では実感がわかないが実習に行くと考えが変わる
		講義だけでは得られないものを実習で得られるように
		看護実習でケアの難しさを実感
	思考が変化した (2)	客観的思考ができるようになった
		健康の定義が変化した
看護がまだわからない (4)	看護がよくわからない (4)	まだ考えが十分でない
		看護は何であるかまだよくわからない
		看護についてはまだはっきりといえない
		看護についてはよくわからない
看護への認識は変わらない (2)	看護の認識は変わらない (2)	看護についての基本的な概念は変わっていない
		それほど変わっていない
その他 (11)		実践的なことを知りたいので実習が待ち遠しい
		患者に心からのケアを提供する気はなかった
		こうしなければいけないという行動パターンが決まってきた
		人間の解剖学的知識を看護過程と結びつける技術を勉強していないので看護を説明できない
		ナイチンゲールの時代、看護があまり知られていなかった、追究していなかったこと
		無事に看護師になれるか
		学習することへの不安
		各々の理論家の強調していた部分のあつまりが看護である。つまり人間関係を上手に導き、人はセルフケア能力を持つ適応システムである
		看護記録が重要
		看護という言葉のイメージ
		看護という言葉に対するイメージ

成されていた。「看護にはさまざまな能力が必要である」の1サブカテゴリーは、「専門的知識が必要である」「技術が必要である」「人間性が必要である」「観察力が必要である」「積極性が必要である」の5サブカテゴリーで構成されており、「看護に対する認識が変化した」のカテゴリーは、「看護のイメージが変化した」「看護への考えが深まった」「視野が広がった」「メタパラダイムを理解した」「看護を誇りに思う」の5サブカテゴリーから構成されていた。「看護は患者が中心である」のカテゴリーは、「サービスである」「患者の個別性を考慮した援助が必要である」「人間を理解する」「相手の立場に立つ」の4サブカテゴリーから構成されており、「看護はいろいろな援助を行う」のカテゴリーは、「環境に働きかける」「精神的ケアを行う」「健康に働きかける」「精神的・身体的援助を行う」「問題解決を援助する」の5サブカテゴリーから構成されていた。「看護は難しい仕事である」のカテ

ゴリーは、「看護は難しく大変な仕事である」の1サブカテゴリーから構成されており、「看護とは、今後の自分の課題である」のカテゴリーは「理想に向けて学びを深める」「自分を成長させたい」の2サブカテゴリーから構成されていた。「看護は重要な仕事である」のカテゴリーは、「命に関わっている」「やりがいのある仕事だ」「看護は貢献している」の3サブカテゴリーから構成されていた。「看護を学んで自分が成長した」のカテゴリーは、「実習の重要性を実感した」「思考が変化した」の2サブカテゴリーで構成されており、「看護がまだわからない」のカテゴリーは「看護がよくわからない」の1サブカテゴリーで構成されていた。

考 察

1. 入学時の看護に関する認識

学生が記述した内容の分析結果からは、入学時と1年終了直前の看護に対する認識のカテゴリーに類似したものは見られていない。学生は入学時に「看護は患者の世話や援助を行う」と認識しているが、そのサブカテゴリーには「患者の世話をする」と捉えている学生と、「診療の補助と身の回りの世話をする」と捉えている学生とがいる。「看護は医師の指示どおりに行う」と認識している学生は、「看護は医師の補助や手伝いを行う」と捉え、看護は医師の助手や医師の手伝い、医師の補佐役などと捉えている。「看護はマニュアルどおりに行う」と認識している看護学生は、看護はマニュアルがあり、決められたことだけやっていたらよいというイメージと認識し、看護は医師に従属しマニュアル通りに行くと認識している。その一方で「看護は専門的な役割をもって」と認識している学生は、看護は専門的であり、技術や技術が必要であると捉えている。しかし「看護に対する一般的なイメージが少なく、はっきりしない」と、漠然と捉えている学生もおり、入学時の学生の看護に対する認識は、一般の人々が看護に関してもっている認識とさほど変わらないものであると考えられる。

2. 1年終了直前の看護に関する認識

専門科目である看護概論や看護理論の学習を1年間行った1年終了直前では、看護の領域や看護の対象・活動内容および看護の範囲などについての記述が多くなっている。

「看護の領域は幅広い」と認識した学生は、「看護は奥深い」と捉え、看護は援助という以上の意味・価値が含まれ、学べば学ぶほど難しく、奥深さを実感している。看護学生は1年間いろいろな科目を学習する中で、看護についての考えを変えながら認識を深めている。このように看護に対する認識の変化は、看護学概論や看護理論の科目で看護について学習したことが影響していると考えられる。さらに「多角的な学問である」と捉えていることから、多くの知識や他分野の知識の必要性、つまり多くの学問領域の理解の重要性を認識している。このことは、看護の対象である人間や看護理論の理解には、他分野の理論や原理も学ぶ必要性を、ナイチンゲールやヘンダーソンを始めとする理論家の理論の学習から自覚した結果と考える。

「看護には人間関係が重要となる」と認識した学生は、「人間関係が重要である」「コミュニケーションが大切である」「人間と関わっている」「患者に影響を与える」「相互作用である」と捉えている。看護は人間同志の関わりあいでもなされることから、看護の実践には人間関係を成立させることの大切さや、コミュニケーションの重要性を認識している。さらに看護は人間と人間の相互作用であることから、看護師は患者に最も影響を与える存在であると認識している。そのため「看護にはさまざまな能力が必要である」と認識しており、その能力として「専門的な知識が必要である」「技術が必要である」「人間性が必要である」と捉えている。看護の実践には的確な判断を行う基盤となる知識と高い技術を身につけることが大切であると考えており、それに加え人を思いやる心と元気づけようとする心が大切などと、看護師の人間性の重要性にも言及した認識をしている。

「看護は専門職である」と認識した学生は、「専門的な学問である」「今後、看護は発展していく」と捉えており、看護は独立した専門的学問、つまり看護学が学問として確立していると認識し、さらに、看護学は未来に向かって発展していく学問であると認識している。看護学生は看護を専門職であると位置づけ、学問として将来さらに発展が期待できると認識している。このように看護を専門職、あるいは専門的なさまざまな能力が必要と捉え、今後変化していくとの予測もしていることは、看護は看護を取り巻く社会（環境）により、影響を受けるというメタパラダイムの考え方が反映されている。

「看護は患者が中心である」と認識した学生は、「患者の個別性を考慮した援助が必要である」と、患者中心の看護の重要性を認識している。そして看護活動として「看護はいろいろな援助を行う」と認識し、それには「環境に働きかける」「精神的ケアを行う」「健康に働きかける」「精神的・身体的援助を行う」「問題解決を援助する」と捉えている。学生は環境と健康とは関連しており、環境を整えることの重要性を述べたナイチンゲールからの学びが大きいと捉えている。

看護に関連する学習を1年間行ったことにより、「看護に対する認識が変化した」と認識している学生は、「看護のイメージが変化した」「看護への考えが深まった」「視野が広がった」「メタパラダイムを理解した」「看護を誇りに思う」と捉えている。これらからは、学生の看護に対する一般的なイメージが、看護について学習したことによってより具体的なものとなったと考えられる。

さらに、学生は看護に対する認識を広げるとともに、「看護学を学ぶことに誇り」をもつように変化している。これらからも専門科目を学習した影響が大きいと判断できる。その一方、「看護がまだわからない」という学生も少数存在し、看護についての認識が明確にされていない看護学生像が考えられる。

しかし看護学生が看護をどのように認識したか否かに関わらず、看護学生は看護学概論や看護理論などの専門科目、看護に関連する科目を学習する過程で、看護に関する認識を変化させている。看護学生の看護に対する認識は、幅広く・深く考えるように変化している。これは1年間の生活体験や経験での学びと言うよりは、学習した科目の影響が大きいと考えられる。その中でも看護の対象や看護活動などに関する認識には、看護学概論の内容が影響していると考えられる。看護学生が捉えた看護の領域の広さや、専門職としての捉え方、援助に関する認識からは、看護理論での学習の影響、つまり学習の成果であると判断できる。今後、学年が進行するに従い、専門科目の学習が増加し、看護学生はより看護を深く考え、看護に対する認識を変化させていくと思われる。

研究の限界

本調査は、入学後約1年経過した時点で看護学生に入学時を振り返って記述してもらった内容であることから、入学当初の看護学生の認識が十分反映されているかが不明である。今後、その時点、時点での調査を実施して比較検証することが必要である。

結 論

看護学生が1年間の学習の成果として、看護に対する認識が入学時と1年終了直前とでどのように変化したかについて、看護学生が記述したレポートから分析した。その結果以下のことが明らかとなった。

1. 看護学生の入学時の看護に対する認識は、「看護は患者の世話や援助を行う」「看護は医師の指示どおりに行う」などの7カテゴリーに分類された。
2. 看護学生の1年終了直前の看護に対する認識は、「看

護の領域は幅広い」「看護には人間関係が重要となる」「看護は専門職である」など14カテゴリーに分類された。

3. 入学時と1年終了直前とのカテゴリーに類似のものはなかった。
4. 看護学生の看護に対する認識の変化には、看護学概論と看護理論の学習の影響が大きいと判断された。

看護学生は、看護学概論や看護理論で捉えた看護をベースとして看護の認識を深めていることから、現状の教授内容は成果をあげていることが明らかとなり、これらからも現状の教育内容や方法を、より精選しながら継続してもよいと判断できた。

文 献

- 1) 立石有紀, 岩本真紀, 近藤美月, 他: 看護学生の看護観の形成—看護学概説, 看護理論の科目前後における看護観の変化から—, 香川医科大学看護学雑誌, 6(1), 63-67, 2002.
- 2) 井上百合香: 過去10年間の看護観形成に関する研究, 第23回日本看護学会集録(看護教育), 149-152, 1992.
- 3) 加藤明美, 島田美佐子, 今井範子, 他: 本校学生の看護観形成に関する研究—卒業時のレポートの分析を試みて—, 第19回日本看護学会集録(看護教育), 156-158, 1988.
- 4) 松下光子, 森仁実, 堀内美奈, 他: 看護学の学習初期の学生に保健婦の家庭訪問事例を用いて伝えた「看護とは何か」, 岐阜県立看護大学紀要1(1), 7-17, 2001.
- 5) 島田知恵, 佐藤啓子: 看護学の保健婦(士)・訪問看護婦(士)のイメージの変化—在宅看護論実習前後の記述内容の分析から—, 日本看護学会論文集第32回看護教育, 6-8, 2002.
- 6) 佐々木真紀子, 大島弓子, 滝内隆子, 他: 看護短期大学学生の看護師の職業にたいする認識—経時的変化と影響要因—, 日本看護学教育学会誌, 12(3), 11-19, 2003.
- 7) 橋本智子: 看護実践を支える看護観の育成, Quality Nursing, 3(2), 126-131, 1997.

*The recognition of the nursing as a result in which
the nursing students learned 1 year*

Hiroko Kondo¹⁾, Mizuki Kondo²⁾, Maki Iwamoto³⁾, Yuki Tateishi²⁾, and Taeko Minami³⁾

¹⁾*Major in Nursing, School of Health Sciences, The University of Tokushima, Japan*

²⁾*School of Nursing, Faculty of Medicine, Pre-Kagawa University, Japan*

³⁾*School of Nursing, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan*

Abstract Nursing students develop their own view of nursing through learning of nursing and accumulating diverse experiences during daily living after entering nursing school. The present study was undertaken to analyze the result of the descriptive survey designed to investigate changes in the students awareness of nursing during the first year of the nursing school (i.e., after one year of learning nursing, nursing-related subjects and subjects for general education). This survey revealed that the nursing students accumulated knowledge and experience and deepened their awareness of nursing during the one year period. These changes in their awareness seem to be particularly related to education of nursing-specific subjects (introduction and theories of nursing). The students deepened their awareness of nursing on the basis of the views they learned from these nursing-specific subjects.

Key words : nursing, awareness of nursing, result of learning, nursing students